

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	とつとりの芸術宅配便			助成:文化庁			
目的・内容	年間を通じて、県内の小中学校、特別支援学校、公民館等に県内の文化活動者を講師として派遣し、鑑賞型、体験型の公演やワークショップ等を実施する事業である。 多感な時期の子どもが文化芸術を体験することで、心の健康の向上、健全な育成を図る。 また、将来の文化芸術の担い手、観客を育成する事を目的とする。						
開催時期	平成21年6月～平成22年2月(54回実施)						
会場	県内小中学校、特別支援学校、公民館						
入場料・参加費	無料						
実施状況	総体験者数 8,010名						
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	5,738,000円	収支比率	0%
	決算額	収入	0円	支出	3,293,669円	収支比率	0%
来場者アンケート(主なもの)	<p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>失敗しても頑張って取り組むことが大切だとわかりました。</li> <li>音楽は誰にでも楽しめる良いものだと思います。また、いろいろな音楽を聞いてみたいです。</li> <li>演奏を生で聞くのは初めてだったので、今日の演奏は大切な思い出にしたいです。</li> </ul> <p>[先生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の心の成長に繋がれたと思います。</li> <li>子どもたちは初めての体験でしたが、興味を持って取り組み、達成感を味わえたと思います。</li> <li>子どもたちはまた新しい自分が発見できたのではないかと思います。</li> <li>やはり本物を見る、聴くということは改めて大切なことだと感じました。</li> </ul>						
1次評価(内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受益者のニーズをより明確に把握するため、申込書に目的・ジャンル選択理由・芸術文化面での取り組みを記入する項目を設けたことにより、実施希望内容や教育現場の状況が、ある程度把握できるようになった。</li> <li>実施プログラムに関して学校側の要望が増えたり、新しく楽器(和太鼓、箏など)を購入した学校もあれば、実施後の学習指導に繋がるように講師にアドバイスを求めるなどの積極的な姿勢が学校側に見られるようになってきた。</li> <li>事業の定着が見られるにつれ、教育課程の一環として活用する学校も数校あった。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業開始から7年が経ち、事業の広がりや定着が見られた一方で、事業の存在は知っていても、文化庁や市町村が行う同様の事業との混同が見られたので、完全な周知とは言い難い部分もある。さらなる広報や、実施先での徹底した事業趣旨の説明が必要である。</li> <li>継続実施によりプログラムのマンネリ化が見られるようになってきた。財団側のプログラム立案能力を養い、そして各講師間での実施見学や派遣講師の研修を行う必要がある。</li> </ul>						
2次評価(財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生きていくうえでの喜び・力は十分提供できる事業である。</li> <li>会館に行きたくても行けない環境にある家庭も多く、この事業はぜひ続けてほしいという現場の声を聞く事が出来た。</li> <li>芸術宅配便は将来の文化人口を拡大するためには教育現場で実施することは有効であると思う。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民に広くPRし、地域社会とともに文化芸術の関心を高めるような働きかけが必要だと思う。</li> </ul>						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>未実施校には直接学校に出向いての説明や教員向け、児童向けのテキストを作成し、PRに努めるとともに、地域との連携も検討していく。</li> <li>事業担当者や講師の県外研修への参加を通して、コーディネータ力の向上やレベルアップ・スキルアップを図ることとする。</li> <li>実施回数や対象人数の増加を目的とするのではなく、各学校の規模や要望に沿ったプログラムを提供できるようにしていく。</li> </ul>						